

# 会津新選組

齋藤一（文政12年・1844～大正4年・1915）



新選組の土方歳三や吉田松陰らが滞在した清水屋旅館跡。大東銀行会津若松支店。



齋藤一の墓は阿弥陀寺の藤田家墓地にあります。時尾との間には3人の子（長男は陸軍少佐）がいました。

齋藤一は、新選組副長助勤、三番組長、剣術師範。『藤田家の歴史』。山口一、齋藤一、山口二（次）郎、一ノ瀬伝八、藤田五郎と名前を変えています。藤田は、妻となる高木時尾の母の姓。

会津に入った新選組は、一八六八年四月二十九日に七日町の清水屋に土方歳三が宿泊し、一三〇人余が若松に入っています。

八月二十一日、母成峠で敗北し、一部は秋元原から大塩温泉に向かい。土方歳三と齋藤一は、猪苗代で、会津藩の重臣に援軍要請の手紙を出し、十六橋から若松に戻り、齋藤一は、天寧寺に四十人に入ります。そして齋藤屋に宿泊したとされています。新選組が、滞在した清水屋は当時木造三階建てで藤田といいました。

八月二十三日、戸ノ口原で戦いますが敗北し、大塩温泉に全員が集結します。八月二十六日、土方歳三が会津を去るとき、齋藤一は「落城せんとするを見て、志を捨て去る、誠義にあらず」と語った『谷口四郎兵衛の日記』会津藩に恩義があり十四人が残ります。九月五日には如来堂で戦いますが、全員生き延び、九月末、南会津で降伏し、塩川に送られ、越後の高田に行きます。

齋藤一は、明治二年に斗南藩の五戸に移住し、篠田やそと、と結婚しますが別れ、明治七年高木時尾と結婚。媒酌は松平容保です。西南戦争に従軍し、その後、警視局や東京高等師範学校、女子高等師範学校に勤務し、東京都本郷真砂町で死去しています。酒豪で胃潰瘍にて正座し臨終したといわれています。大正四年九月二十八日、七十一歳でなくなり、墓は、会津若松市七日町の阿弥陀寺に二二八一体が埋葬された会津藩墓地南西にあります。

新選組の齋藤一が宿泊した齋藤屋跡



一八六八年八月二十三日、大鳥圭介・土方歳三らとともに終結した北塩原村の大塩温泉



一八六八年九月二日、大鳥圭介とともに陣を敷いた西会津町の「陣ヶ峯峠」。九月五日朝、神指城二ノ丸、如来堂で西軍に襲われます。



御三階は、鶴ヶ城本丸内にあった建物。外見三階、内部は四階で、床は驚張りです。二階から三階に上る階段は取り込み式です。四階は殿様が本丸内を見渡す場所となっていました。正面の玄関は、本丸内にあった大書院の玄関部分です。未指定。

